

# 見沼たんぼ

今年は春の訪れが早いようで、東京の桜の開花予想日は3月18日だそうです。今回は満開の桜を楽しみながら、のんびり歩くコースです。見沼たんぼはさいたま市の東部にあり、広さ約1260haという広大な面積を持つ、首都圏近郊における貴重な大規模緑地空間です。たんぼや畑、雑木林、河川や見沼代用水によって作られる田園風景と生き物を育む自然が残っています。見沼代用水東縁、西縁沿いに総延長20kmの桜回廊があり、桜の下を散策できるものとしては日本一です。

月 日 **3月28日(火)** 予備日 3月31日(金)

集 合 **ひばりが丘駅 下りホーム 前から2両目付近 13時**

コース ひばりが丘駅 ⇒ 秋津駅 … 新秋津駅 ⇒ 東浦和駅 … 見沼通船堀 …  
13:07 13:14 13:33 13:57

川口自然公園 … 大崎公園 … 念仏橋 ⇒ 浦和駅 ⇒ 池袋駅(解散)

注) ⇒ 公共交通機関 … 徒歩

約6.5kmの平坦な歩き易い遊歩道です。

**見沼たんぼ** 古代は東京湾とつながる入り江であったが、約6000年前に海が後退して無数の湿地や沼が生まれた。江戸時代初期に、東京湾に流れ込んでいた利根川を銚子へ流す利根川東遷と荒川の流れを統合して耕地を安定させる荒川西遷の工事が行われた。この大土木工事を行ったのが伊奈備前守忠次などの伊奈一族である。江戸時代中期になって、利根川から約60kmに渡って用水が引かれ、見沼たんぼの東縁と西縁の台地に沿って水路が引かれ、農業用水が供給されることになり、稲作が行われるようになった。

**見沼通船堀** 見沼たんぼで収穫された米を年貢米として江戸に運ぶために、東西の見沼代用水と芝川を結ぶ見沼通船堀が造られた。見沼代用水と芝川との水位差が3mあるため、この水位差を克服するために2か所に閘門を作った。閘門とは、水位差の大きいところに閘(水門)を作って水位を調整し、船を通す設備である。パナマ運河も閘門式運河であるが、見沼通船堀はパナマ運河より183年前に作られている。昭和初期から利用されておらず、現在は復元されたものを見ることが出来る。1982年に国の史跡に指定された。

小島 恕雄

〒202-0022 西東京市柳沢 1-11-2

電話 042-427-5032

携帯 090-1131-0768

メールアドレス [mogaribuester@gmail.com](mailto:mogaribuester@gmail.com)